

校長だより

福津市立福間東中学校
校長 猪股 清貴
平成 29 年 1 月 24 日 No54

うが 雨だれ石を穿つ



左の写真。何を写したものか分かりますか？各学年の教室棟に掲示してある西日本新聞のコラム「春秋」ですね。6月18日（土）のコラムから毎日毎日、藤原先生が掲示してくださっています。写真のコラム、何枚重ねてあると思いますか？多い曜日で20枚重なっています。単純に計算してもここには【7（1週間）×20週＝140】140日分のコラムが掲示されていることになりますね。コラムとは一定の枠に囲まれた短い時評（社会の出来事などについて、その時その時に行う批評や評論）を言います。とても短い文章ですが、世の中で何が起きているのか、注目されている事柄は何か、そして、それに対して筆者はどのように考えているのかが表現されています。新聞の第1面の記事ですので、個人の考えというよりも、その新聞社がどのように問題をとらえているのかもよく分かります。

かつて、「国語の力をつけたいのですが、どんな勉強をしたらいいですか？」と

聞かれることがよくありました。私は迷わず、どの新聞社でもいいのでコラムを読んで、感想を書くようにアドバイスをしていました。ただ、ここで、二つ条件を付けました。一つは、感想が書けるくらい内容を理解できるように自分にとって難しい言葉は調べて解決すること。二つ目は、さぼらずに毎日続けることです。全校生徒の中には、きっと毎日このコラムを読んでくれている人がいるはずですよ。掲示してあるプリントには親切に大事なところにマーカーが引いてあります。続けている人、間違いなく力がついてきているはずですよ。自信を持ってください。

※「穿つ」：穴をあける

『雨だれ石を穿つ』という言葉があります。『点滴石を穿つ』とも言いますね。「わずかなことでも、根気強く続けてやれば、成功につながる」という意味です。『継続は力なり』です。下のコラムからも新しい発見がありますね。



春秋

2017.1.17

国家の重大事であるのに、くじ引きで決めたこともあるそうだ。元号の話。孝明天皇が亡くなり、それまでの「慶応」を改める際、複数の候補の中から新天皇自らくじを引いて決めたのが「明治」という▼日本の元号は645年の「大化元年」が始まりとされ、「平成」は247番目。天皇の交代以外にも、慶事や吉兆があったり、天災や疫病の克服を願ったりする時にも改元が行われた▼では、どのようにして決まるのか。かつては天皇や朝廷が深く関わったのだろうか、1979年の元号法で「元号は政令で定める」とした。具体的には、首相が選んだ学識者が複数の候補を示し、政府で検討して閣議決定する▼天皇陛下の退位を巡る法整備が動き出した。「一世一元」の元号も改められる。政府は「2019年1月1日の新天皇即位、新元号適用」の方向と報じられた▼この予定なら改元までに時間がある。学識者が中国の古典などから考え出すだけでなく、国民も参加できないか。どんな時代が来てほしいか、さまざまな思いがあろう。公募し、いい案があれば候補に加えては、候補を公開して幅広い意見を聞いた上で選挙が行われるならなお良い▼暮らした一部ともいえる元号である。決定権は国民を代表する政治家にあるのだから、国民が直接関わる余地もつくれよう。国民が元号を身近に感じられるのは、次代の皇室にとっても望ましいことだろう。